

肺炎

肺炎には、細菌性肺炎・ウイルス性肺炎・マイコプラズマ肺炎などがあります。

発熱や咳が主な症状です。かぜ症候群や気管支炎、麻疹などをこじらせて、気管や気管支の抵抗力がおち、炎症が肺の中まで広がった状態です。

また、月齢の低い赤ちゃんの場合、体温調整機能や呼吸機能が未熟なため、肺炎にかかっても高熱や咳などの症状がはっきりとあらわれにくい場合があります。かぜをひいたなと思ったら、機嫌や顔色、呼吸状態、食欲などいつもと違った様子がないかよく観察し、気になることがあったら早めに病院を受診して悪化を防ぎましょう。

細菌性肺炎

【原因】肺炎球菌、黄色ブドウ球菌、溶連菌などが原因です。他の肺炎から比べると重症になりがちです。

【症状】**高熱が続き、咳がひどく呼吸も苦しくなります。顔色は青白く、ぐったりして食欲もありません。**37℃台とあまり熱が上がらないこともあります。

【治療】ほとんどの場合入院が必要です。**抗生物質を服用**し、完全に細菌を退治するまで飲み続けましょう。

ウイルス性肺炎

【原因】肺炎の中で最も多く、アデノウイルスやインフルエンザウイルスなどが原因です。

【症状】**咳が激しく出たり、しつこく続きます。熱はそれほど高くなく、また、早く下がる傾向**があります。

【治療】基本的には**対症療法**（咳に対する咳止めや、痰を出しやすくする去痰剤など）が中心です。自宅で安静・保清・加湿につとめ、水分をたっぷり摂りましょう。

マイコプラズマ性肺炎

【原因】マイコプラズマという微生物が原因です。赤ちゃんには少なく、幼児期後半～学童期の子どもに多いのが特徴です。

【症状】**咳が激しく出る**のが特徴です。**38℃～39℃位の熱が一週間ほど出て、夜間や明け方に痰や咳が出ます。**また、**熱が下がっても咳が続くこともあります。**比較的元気なケースも多いようです。

【治療】入院になることもあります。**抗生物質を服用**します。自宅では保清・加湿につとめ、咳がひどい時には上体を高くして呼吸を楽にしましょう。

※「かぜ」や「気管支炎」、「肺炎」は区別がなかなかつきにくいものです。一つの目安は、症状の重さよりもお母さんやお父さんから見て、普段に比べて元気があるかどうかということで判断するとよいでしょう。また、熱が4～5日続いているときは早めに受診しましょう。

※症状が軽ければ、入院せずお薬を内服して自宅で様子を見ることもあります。

その際には、水分（イオン水など）を十分摂らせ、加湿をするように

心がけましょう。また、煙草などの煙は咳の刺激になるので気をつけましょう。

